

令和6年新年所感「初心・残心・期心を捉える」

驚愕の新年 コロナ禍を乗り越えた令和6年元旦。ここ数年間の負の社会動向をリセットするがごとく、「今年は春から縁起がいい」の思いを沸き立たせようと思いつつ。が、舌の根の乾かぬうちの元日午後、能登半島地震の勃発。そして、前者と無関係とは言えない航空機衝突事故。被災者、関係者はもちろんのこと、全国民が衝撃を受け心をえぐられたことは言うまでもない。今も犠牲者が増える中（1月6日現在）、命を奪われた人々のご冥福をお祈りすると共に、寒風と余震に震える被災地の人々の思いを深く刻みたい。

国家・民族・宗教が究極の凶器に 21世紀のグローバル化の潮流に鉄拳を振上げたロシアのウクライナ侵攻、すでに2年の経過をみようとするが一向に終息の兆しをみない。影響力をもつ諸大国はもちろん、世界193か国参加の国連の場においても、加盟国がもっとも排除したいと願ってきたはずの「戦争悪」を止める知恵を持たない。惨劇の歴史に学ばない人間ほど残酷な動物はいないと、我々の生活に寄り添う犬・猫に誹られること間違いなし。

国家（民族・宗教）が、国益の御旗のもと殺戮の凶器と化して周辺弱小国を攻め入っている。イスラエルとパレスチナの戦争も、また。民族・宗教の名のもと、直接・間接的に殺戮に加担している国々も。その結果、善良な地球市民の命や人権が無視され、「地球死民」を次から次へと送り出す現実を目の当たりにする。

グローバル化に背を押され活動を積み上げてきたオアシス第1次海外支援活動。本年から始まる第2次の活動に向け、これまで以上の種々の課題を意識せざるを得ない現実がある。

「今だけ、金だけ、自分だけ」の社会意識を希釈する 世界情勢から目を転じ日本の現状へ、ますます政治が劣化してきていると言わざるを得ない。日本国民をリードすべき政界に範を期待することは無理なのか。「せめて5年、10年後の社会を見通すことはできないのか」「お金や生産性だけの実利主義競争の権化になり下がってはいないか」「リーダーたる者、天下国家を俯瞰し、具体的構想をもつことはできないのか」など、皮肉を込めた政界への舌鋒としつつも、振り返ってわが身の行く末を見通しつつ、併せて第1次カンボジア支援活動の成果と課題を反芻していきたいと思う今日この頃。

社員の皆様方には、第一次の活動と比較して時間と資金の投入がより困難な状況になってきていることを前提として、緩やかながらも今こそ、「自利利他の精神」を培っていきたいと考えます。本年も旧年同様ご協力、ご尽力のほどよろしく申し上げます。

NPO 法人オアシス代表理事 足立泰敏

《令和5年度 年度末の活動予定》 多数ご参会ください！

- 1/21(日)～26(金) 第2次カンボジア支援活動「首都プノンペン近郊での活動拠点づくり」6名参加
- 1/27(土)10:00～12:30 小江公民館「母国の料理自慢 調理して会食交流会」
- 2/中旬 広報オアシス47号発行「内容:オアシス応援地球志民学校、カンボジア訪問」
- 2月18日(日)15:00 小江公民館 2月役員会「内容:来年度の活動計画」
- 3月17日(日)15:00 小江公民館 3月役員会 地球志民リーダーズ反省会「来年度に向けて」